

LEDと水で薬用植物

経産省の「地域新生コンソーシアム事業」

清水商議所と 静岡、県立大など 共同研究を採択

産学官が連携して地域の新産業創出を目指す経済産業省の提案公募型事業「平成十八年度地域新生コンソーシアム（共同企業体）研究開発事業」に三十一日、県内から唯一、清水商工会議所と静岡大、県立大、鈴与総合研究所、静岡、静岡日立冷熱による「高輝度LED（発光ダイオード）と亜臨界水抽出法による薬用植物生産プロセスの構築」が採択された。

全国で七百七十五件の所グループの提案を含め応募があった。うち、研究委託費が上限一億円（初年度）と規模の大きい一般枠の応募は二百三十九件で、採択は同商議

所グループの提案を含め、での研究成果を基盤に、委託資金を活用し、新時代の光と水の技術を生かした安全安心で高効率な植物栽培技術の確立を目指す。

清水商工会議所は十三年度、海洋資源の有効活用などを目指す「駿河湾地域新事業推進研究会」（中西幹育会長）を組織。「植物工場」

る高付加価値植物の育成」や、東海大も参加した「三保の地下海水を利用した魚介類の陸上養殖」などのテーマについて、既に、事業化に向けた具体的な取り組みを始めていた。

「地域活性化に努力」

杉山公一清水商工会議所会頭の話　ここに至るまで、地元企業や大学の熱意に行政の支援が加わり、まさに地域の産学官が一体となって取り組んできた経緯があります。新たな新産業の創出により地域の活性化が図られるよう、引き続き努力していきます。

「プロジェクト推進室」